



System Managerを使用したクラスタ管理

ONTAP 9

NetApp
February 12, 2026

目次

System Managerを使用したクラスタ管理	1
ONTAP System Managerを使用したクラスタ管理について学習します	1
System Managerの用語	2
System Managerを使用してONTAPクラスタにアクセスする	2
ONTAPクラスタでプロトコルを構成する	4
ONTAP System Managerでライセンスキーを追加して新機能を有効にする	4
ONTAP System Managerを使用してクラスタ構成をダウンロードする	4
ONTAP System Managerを使用してクラスタにタグを割り当てる	5
ONTAP System Managerを使用してサポートケースを表示および送信する	6
テレメトリ ログの有効化	7
ONTAP System ManagerでStorage VMの最大容量制限を管理する	7
Storage VMの最大容量の有効化	7
Storage VMの最大容量の編集	8
ONTAP System Managerでクラスタ、階層、SVMの容量を監視する	8
クラスタの容量の表示	9
ローカル階層の容量の表示	9
Storage VM内のボリュームの容量表示	10
Storage VMの最大容量の表示	11
ONTAP System Managerでハードウェア構成を表示して問題を特定します	11
コントローラに関する情報	12
ディスク シェルフに関する情報	16
ストレージ スイッチに関する情報	17
ケーブル接続に関する情報	18
ONTAP System Managerを使用してノードを管理する	18
クラスタにノードを追加	19
サービス プロセッサのシャットダウン、リブート、編集	19
ノード名の変更	20

System Managerを使用したクラスタ管理

ONTAP System Managerを使用したクラスタ管理について学習します

System Managerは、HTML5ベースのグラフィカルな管理インターフェイスで、ストレージシステムおよびストレージオブジェクト（ディスク、ボリューム、ストレージ階層など）の管理やストレージシステムに関連する一般的な管理作業をWebブラウザを使用して実行できます。

- System ManagerはWebサービスとしてONTAPソフトウェアに搭載されており、デフォルトで有効になっていて、ブラウザからアクセスできます。
- System Managerは、ONTAP 9.6から名称が変更されています。ONTAP 9.5以前はOnCommand System Managerでしたが、ONTAP 9.6からはSystem Managerと呼ばれます。
- クラシック System Manager（ONTAP 9.7以前でのみ使用可能）を使用している場合は、["System Manager Classic \(ONTAP 9.0~9.7\)"](#)を参照してください。

System Managerのダッシュボードでは、重要なアラートと通知、ストレージ階層およびボリュームの効率性と容量、クラスタで使用可能なノード、HAペアを構成するノードのステータス、最もアクティブなアプリケーションやオブジェクト、クラスタやノードのパフォーマンス指標に関する情報を一目で確認できます。

ONTAP 9.7以降のリリースのSystem Managerを使用すると、次のような多くの一般的なタスクを実行できます：

- クラスタの作成、ネットワークの設定、およびクラスタ用のサポート情報の設定を行う。
- ディスク、ローカル階層、ボリューム、qtree、クオータなどのストレージオブジェクトを構成し、管理する。
- SMBやNFSなどのプロトコルを設定し、ファイル共有をプロビジョニングする。
- FC、FCoE、NVMe、iSCSIなどのプロトコルをブロックアクセス用に設定する。
- サブネット、ブロードキャストドメイン、データ/管理インターフェイス、インターフェイスグループなどのネットワークコンポーネントを作成および設定する。
- ミラー関係とバックアップ関係をセットアップおよび管理する。
- クラスタ管理、ストレージノード管理、およびStorage Virtual Machine（Storage VM）管理の処理を実行する。
- Storage VMの作成と設定、Storage VMに関連付けられたストレージオブジェクトの管理、およびStorage VMサービスの管理を行う。
- クラスタでハイアベイラビリティ（HA）構成を監視および管理する。
- サービスプロセッサを設定して、ノードに対してその状態に関係なくリモートからログイン、管理、および監視を実行する。

System Managerの用語

System Managerでは、ONTAPの一部の主要機能について、CLIとは異なる用語が使用されます。

- ・ローカル層：データを保存する物理的なソリッドステートドライブまたはハードディスクドライブのセット。これらはアグリゲートと呼ばれることもあります。実際、ONTAP CLIを使用する場合、ローカル層を表すために`_アグリゲート`という用語が今でも使用されています。
- ・クラウド層：ONTAPがいくつかの理由からデータの一部をオフプレミスで保管したい場合に利用するクラウド内のストレージです。FabricPoolのクラウド部分を思い浮かべているなら、既にお分かりでしょう。また、StorageGRIDシステムを使用している場合は、クラウドは必ずしもオフプレミスではない可能性があります。（オンプレミスでクラウドのような環境を実現することは、`_プライベートクラウド`と呼ばれます。）
- ・ストレージVM：ONTAP内で実行され、クライアントにストレージおよびデータサービスを提供する仮想マシン。`_SVM`または`_vserver`と呼ばれることもあります。
- ・ネットワークインターフェイス：物理ネットワークポートに割り当てられたアドレスとプロパティ。`_論理インターフェイス (LIF)`とも呼ばれます。
- ・一時停止：処理を停止するアクション。ONTAP 9.8より前のバージョンのSystem Managerでは、「休止」と呼んでいた可能性があります。

System Managerを使用してONTAPクラスタにアクセスする

コマンドラインインターフェイス(CLI)ではなくグラフィカルインターフェイスを使用してクラスタにアクセスして管理するには、System Managerを使用します。System ManagerはONTAPに搭載されているWebサービスでデフォルトで有効になっており、ブラウザを使用してアクセスできます。

ONTAP 9.12.1 以降、System Manager は NetApp Console と完全に統合されています。



Console を使用すると、使い慣れた System Manager ダッシュボードを維持しながら、単一のコントロール プレーンからハイブリッド マルチクラウド インフラストラクチャを管理できます。

["System ManagerとNetApp Consoleの統合"を参照してください。](#)

タスク概要

System Managerには、クラスタ管理ネットワークインターフェイス(LIF)とノード管理ネットワークインターフェイス(LIF)のどちらかを使用してアクセスできます。System Managerに無停止でアクセスするには、クラスタ管理ネットワークインターフェイス(LIF)を使用する必要があります。

開始する前に

- ・「admin」ロールと「http」および「console」アプリケーションタイプで構成されたクラスタユーザー アカウントが必要です。
- ・ブラウザでクッキーとサイトのデータを有効にしておく必要があります。

手順

1. Webブラウザで、クラスタ管理ネットワークインターフェイスのIPアドレスを指定してアクセスします。

◦ IPv4を使用している場合: <https://cluster-mgmt-LIF>

◦ IPv6を使用している場合: [https://\[cluster-mgmt-LIF\]](https://[cluster-mgmt-LIF])



System Managerのブラウザ アクセスでサポートされるのはHTTPSのみです。

自己署名のデジタル証明書がクラスタで使用されている場合、信頼されていない証明書であることを伝える警告がブラウザ画面に表示されることがあります。リスクを承諾してアクセスを続行するか、認証局(CA)の署名のあるデジタル証明書をクラスタにインストールしてサーバを認証します。

2. オプション: CLIを使用してアクセス バナーを設定した場合は、*警告*ダイアログ ボックスに表示されるメッセージを読み、必要なオプションを選択して続行します。

Security Assertion Markup Language (SAML) 認証が有効になっているシステムでは、このオプションはサポートされていません。

◦ 続行しない場合は、キャンセルをクリックしてブラウザを閉じます。

◦ 続行する場合は、OKをクリックして、System Manager ログイン ページに移動します。

3. クラスタ管理者のクレデンシャルを使用してSystem Managerにログインします。



ONTAP 9.11.1以降では、System Managerにログインするときにロケールを指定できます。ロケールは、言語、通貨、時刻と日付の形式など、特定のローカライズ設定を指定します。ONTAP 9.10.1以前では、System Managerのロケールはブラウザから検出されます。System Managerのロケールを変更するには、ブラウザのロケールを変更する必要があります。

4. オプション: ONTAP 9.12.1 以降では、System Manager の外観を設定できます。

a. System Manager の右上隅で をクリックして、ユーザー オプションを管理します。

b. **System Theme** トグル スイッチを好みに合わせて配置します。

位置を切り替える	外観設定
(左)	ライトテーマ (明るい背景に暗いテキスト)
OS (中央)	オペレーティング システムのアプリケーションに設定されたテーマ設定 (通常は、System Manager にアクセスするために使用されるブラウザのテーマ設定) をデフォルトにします。
(右)	ダークテーマ (暗い背景に明るいテキスト)

関連情報

["Webサービスへのアクセスの管理"](#)

["Webブラウザを使用したノードのログ ファイル、コア ダンプ ファイル、およびMIBファイルへのアクセス"](#)

ONTAPクラスタでプロトコルを構成する

クラスタで有効になっているライセンスに応じて、必要なプロトコルを有効にできます。その後、ストレージへのアクセスに使用するネットワーク インターフェイスを作成します。

タスク概要

この手順は、FAS、AFF、およびASAシステムに適用されます。ASA r2システム (ASA A1K、ASA A90、ASA A70、ASA A50、ASA A30、ASA A20、またはASA C30) をお持ちの場合は、"これらの手順"に従ってSystem ManagerでONTAPクラスタをセットアップしてください。ASA r2システムは、SANのみのお客様向けに簡素化されたONTAPエクスペリエンスを提供します。

手順

1. *ダッシュボード*を選択し、*プロトコルの構成*をクリックします。
 - NAS プロトコルを有効にするには、**NFS** または **SMB** を選択します。
 - SAN プロトコルを有効にするには、* iSCSI * または * FC * を選択します。
 - NVMe プロトコルを有効にするには、* NVMe * を選択します。

ONTAP System Managerでライセンスキーを追加して新機能を有効にする

ONTAP 9.10.1より前のリリースでは、ONTAPの機能はライセンス キーで有効になり、ONTAP 9.10.1以降の機能はNetAppライセンス ファイルで有効になります。System Managerを使用して、ライセンス キーとNetAppライセンス ファイルを追加できます。

ONTAP 9.10.1以降では、System Managerを使用してNetAppライセンス ファイルをインストールし、ライセンスが設定された複数の機能を一度に有効にすることができます。NetAppライセンス ファイルを使用すると、個別の機能ライセンス キーを追加する必要がなくなるため、ライセンスのインストールが簡易化されます。NetAppライセンス ファイルはNetAppサポート サイトからダウンロードします。

いくつかの機能について既存のライセンス キーがあり、ONTAP 9.10.1へのアップグレードを実行した場合、それらのライセンス キーも引き続き使用できます。

手順

1. *Cluster > Settings*を選択します。
2. *ライセンス*の下で、→を選択します。
3. *参照*を選択します。ダウンロードしたNetAppライセンス ファイルを選択します。
4. 追加するライセンス キーがある場合は、*28 文字のライセンス キーを使用する*を選択し、キーを入力します。

ONTAP System Managerを使用してクラスタ構成をダウンドロードする

ONTAP 9.11.1以降では、System Managerを使用してクラスタとそのノードに関する構

成の詳細をダウンロードできます。この情報は、インベントリ管理、ハードウェア交換、およびライフサイクル アクティビティに使用できます。この情報は、AutoSupport (ASUP) データを送信しないサイトで特に役立ちます。

クラスタ構成の詳細には、クラスタ名、クラスタのONTAPバージョン、クラスタ管理LIF、ボリューム、LIF数などがあります。

ノード構成の詳細には、ノード名、システムシリアル番号、システムID、システムモデル、ONTAPバージョン、MetroCluster情報、SP / BMCネットワーク情報、暗号化設定情報などがあります。

手順

1. *[クラスタ] > [概要]*をクリックします。
2.  More をクリックすると、ドロップダウンメニューが表示されます。
3. *構成のダウンロード*を選択します。
4. HAペアを選択し、*ダウンロード*をクリックします。

構成はExcelスプレッドシートとしてダウンロードされます。

- 最初のシートにはクラスタの詳細が含まれています。
- 他のシートにはノードの詳細が含まれています。

ONTAP System Managerを使用してクラスタにタグを割り当てる

ONTAP 9.14.1以降では、System Managerを使用してクラスタにタグを割り当て、プロジェクトやコストセンターなどのカテゴリに属するオブジェクトを識別することができます。

タスク概要

クラスタにタグを割り当てることができます。まず、タグを定義して追加する必要があります。その後は、タグを編集したり、削除したりすることもできます。

タグは、クラスタの作成時に追加することも、あとから追加することもできます。

タグを定義するには、キーを指定し、“key:value”という形式で値を関連付けます。例：“dept:engineering”または“location:san-jose”。

タグを作成するときは、次の点を考慮する必要があります。

- キーは1文字以上の長さが必要で、nullにすることはできない。値はnullにしてもよい。
- キーは、値をコンマで区切ることで複数の値とペアにすることができます。例：“location:san-jose,toronto”
- タグは複数のリソースに使用できる。
- キーの先頭は小文字にする。

手順

タグを管理するには、次の手順を実行します。

1. System Manager で、**Cluster** をクリックして概要ページを表示します。

タグは*Tags*セクションに一覧表示されます。

2. 既存のタグを変更したり、新しいタグを追加するには、**Manage Tags** をクリックします。

タグは追加、編集、または削除できます。

このアクションを実行するには...	次の手順を実行します。
タグを追加	<ol style="list-style-type: none">*Add Tag*をクリックします。キーとその値を指定します（複数の値はカンマで区切れます）。*保存*をクリックします。
タグを編集する	<ol style="list-style-type: none">*Key*および*Values (optional)*フィールドの内容を変更します。*保存*をクリックします。
タグの削除	<ol style="list-style-type: none">削除したいタグの横にある  をクリックします。

ONTAP System Managerを使用してサポートケースを表示および送信する

ONTAP 9.9.1以降では、クラスタに関連付けられているActive IQ Digital Advisor（単にDigital Advisorとも呼ばれる）からサポート ケースを表示できます。NetApp サポートサイトで新しいサポート ケースを送信するために必要なクラスタの詳細をコピーすることもできます。ONTAP 9.10.1以降では、サポート担当者による問題のトラブルシューティングに役立つように、テレメトリ ログを有効にできます。



ファームウェアアップデートに関するアラートを受信するには、Active IQ Unified Manager に登録する必要があります。"Active IQ Unified Managerのドキュメント"を参照してください。

手順

1. System Managerで、*サポート*を選択します。

このクラスタに関連付けられているオープンなサポート ケースのリストが表示されます。

2. 次のリンクをクリックして手順を実行します。

- ケース番号：ケースの詳細を表示します。
- **NetApp Support Site** にアクセス：NetApp Support Site の **My AutoSupport** ページに移動して、ナレッジベース記事を閲覧したり、新しいサポートケースを提出したりできます。
- マイケースの表示：NetApp Support Site の マイケース ページに移動します。

- ° クラスタの詳細を表示：新しいケースを送信するときに必要な情報を表示およびコピーします。

テレメトリ ログの有効化

ONTAP 9.10.1以降では、System Managerを使用してテレメトリ ログを有効にできます。テレメトリ ログを有効にすると、System Managerで記録されるログ メッセージに、メッセージをトリガーした正確なプロセスを示す特定のテレメトリIDが付与されます。IDは運用ワークフローの名前と番号（例：add-volume-1941290）で構成され、そのプロセスに関連して発行されたすべてのメッセージに同じIDが割り当てられます。

テレメトリ ログを有効にすると、パフォーマンスの問題が発生した場合に、メッセージが発行されたプロセスをサポート担当者がより簡単に特定できるようになります。メッセージにテレメトリIDを追加しても、ログファイルのサイズが大幅に増えることはありません。

手順

1. System Managerで、*Cluster > Settings*を選択します。
2. *UI 設定*セクションで、*テレメトリ ログの記録を許可する*のチェック ボックスをクリックします。

ONTAP System ManagerでStorage VMの最大容量制限を管理する

ONTAP 9.13.1以降では、System Managerを使用してStorage VMの最大容量を有効にし、しきい値を設定して使用済みストレージが最大容量の一定の割合に達したときにアラートをトリガーすることができます。

Storage VMの最大容量の有効化

ONTAP 9.13.1以降では、Storage VM内のすべてのボリュームに割り当てる最大容量を指定できます。最大容量は、Storage VMを追加するとき、または既存のStorage VMを編集するときに有効にします。

手順

1. **Storage > Storage VMs** を選択します。
2. 次のいずれかを実行します。
 - ° ストレージ VM を追加するには、 をクリックします。
 - ° ストレージ VM を編集するには、ストレージ VM の名前の横にある をクリックし、[編集] をクリックします。
3. Storage VMの設定を入力または変更し、[Enable maximum capacity limit] チェック ボックスをオンにします。
4. 最大容量を指定します。
5. アラートをトリガーするしきい値として使用する、最大容量の割合を指定します。
6. *保存*をクリックします。

Storage VMの最大容量の編集

ONTAP 9.13.1 以降では、[最大容量制限が有効になりました](#)が既に設定されている場合、既存のストレージ VM の最大容量制限を編集できます。

手順

1. **Storage > Storage VMs** を選択します。
2. ストレージ VM の名前の横にある  をクリックし、*編集*をクリックします。
[Enable maximum capacity limit] チェック ボックスがすでにオンになっています。
3. 次のいずれかの手順を実行します。

アクション	手順
最大容量制限を無効にする	<ol style="list-style-type: none">1. チェック ボックスをオフにします。2. *保存*をクリックします。
最大容量制限を変更する	<ol style="list-style-type: none">1. 新しい最大容量を指定します（Storage VMですでに割り当てられているスペースよりも小さいサイズを指定することはできません）。2. アラートをトリガーするしきい値として使用する、最大容量の新しい割合を指定します。3. *保存*をクリックします。

関連情報

- ["Storage VMの最大容量の表示"](#)
- ["System Managerでの容量測定"](#)
- ["SVMの容量制限の管理"](#)

ONTAP System Managerでクラスタ、階層、SVMの容量を監視する

System Managerを使用して、クラスタ、ローカル階層、Storage VMの使用済みストレージ容量と使用可能ストレージ容量を監視できます。

ONTAP System Managerでは、バージョンごとに異なる容量監視機能が提供されます。

- ONTAP 9.13.1以降では、Storage VMの最大容量を有効にして、しきい値を設定して使用済みストレージが最大容量の一定の割合に達したときにアラートをトリガーすることができます。
- ONTAP 9.12.1以降では、System Managerでローカル階層のコミット済み容量を表示できます。
- ONTAP 9.10.1以降、System Managerではクラスタの容量に関する履歴データと、将来の使用済み容量や使用可能容量の予測を表示できます。また、ローカル階層とボリュームの容量を監視することもできます。



使用容量の測定値の表示方法はONTAPのバージョンによって異なります。詳細については["System Managerでの容量測定"](#)を参照してください。

クラスタの容量の表示

クラスタの容量の測定値は、System Managerのダッシュボードに表示することができます。

開始する前に

クラウド上の容量を表示するには、Digital Advisorのアカウントがあり、クラウドに接続している必要があります。

手順

1. System Managerで、*Dashboard*をクリックします。
2. *容量*セクションでは、次の情報を確認できます：

- クラスタの合計使用済み容量
- クラスタの合計使用可能容量
- 使用済み容量と使用可能容量の割合
- データ削減率
- クラウド内の使用済み容量
- 使用済み容量の履歴
- 使用済み容量の予測



System Managerでは、ルートストレージ階層（アグリゲート）の容量は考慮されません。

3. グラフをクリックして、クラスタの容量に関する詳細を表示します。

容量は2つの棒グラフに表示されます。

- 上のグラフには物理容量（使用済み、予約済み、使用可能な物理スペースのサイズ）が表示されます。
- 下のグラフには、論理容量（クライアントデータ、Snapshot、クローンのサイズと、論理使用領域の合計）が表示されます。

棒グラフの下には、データ削減率が表示されます。

- クライアントデータのみのデータ削減率（スナップショットとクローンは含まれません）。
- 全体的なデータ削減率。

詳細については、["System Managerでの容量測定"](#)を参照してください。

ローカル階層の容量の表示

ローカル階層の容量の詳細を表示できます。ONTAP 9.12.1以降では、*容量*ビューにローカル階層のコミット済み容量も表示されるようになりました。これにより、コミット済み容量に対応し、空きスペース不足を回

避するためにローカル階層に容量を追加する必要があるかどうかを判断できます。

手順

1. *Storage > Tiers*をクリックします。
2. ローカル階層の名前を選択します。
3. 概要 ページの 容量 セクションでは、容量が 3 つの測定値とともに棒グラフで表示されます：
 - 使用済み容量とリザーブ容量
 - 使用可能容量
 - コミット済み容量 (ONTAP 9.12.1以降)
4. グラフをクリックして、ローカル階層の容量に関する詳細を表示します。

容量は2つの棒グラフに表示されます。

- 上の棒グラフには物理容量が表示されます (使用済みの物理スペース、リザーブ スペース、および使用可能なスペース)。
- 下の棒グラフには、論理容量 (クライアント データ、Snapshot、FlexClone のサイズ、および論理使用済みスペースの合計) が表示されます。

棒グラフの下には、データ削減率が表示されます。

- クライアント データのみのデータ削減率 (スナップショットとクローンは含まれません)。
- 全体的なデータ削減率。

詳細については、"System Managerでの容量測定"を参照してください。

オプションの操作

- コミットされた容量がローカル層の容量よりも大きい場合は、空き領域がなくなる前にローカル層に容量を追加することを検討してください。"ローカル階層への容量の追加 (アグリゲートへのディスクの追加)"を参照してください。
- * Volumes * タブを選択すると、ローカル階層で特定のボリュームが使用するストレージを表示することもできます。

Storage VM内のボリュームの容量表示

Storage VM内のボリュームで使用されているストレージ容量と使用可能な容量を表示できます。使用済みストレージと使用可能なストレージの合計は「すべてのボリュームにおける容量」と呼ばれます。

手順

1. Storage > Storage VMs を選択します。
2. Storage VMの名前をクリックします。
3. *容量*セクションまでスクロールすると、次の測定値を示す棒グラフが表示されます：

- 物理使用量：このストレージVM内のすべてのボリュームで使用されている物理ストレージの合計。
- Available：このストレージVM内のすべてのボリュームの使用可能な容量の合計。

- 論理使用済み：このストレージVM内のすべてのボリュームで使用されている論理ストレージの合計。

測定の詳細については、["System Managerでの容量測定"](#)を参照してください。

Storage VMの最大容量の表示

ONTAP 9.13.1以降では、Storage VMの最大容量を表示できます。

開始する前に

表示するには、事前に["ストレージVMの最大容量制限を有効にする"](#)を行う必要があります。

手順

1. **Storage > Storage VMs** を選択します。

最大容量は次の2つの方法で表示できます。

- ストレージ VM の行で、使用済み容量、使用可能な容量、最大容量を示す棒グラフを含む 最大容量 列を表示します。
- ストレージVMの名前をクリックします。*概要*タブで、左側の列に表示される最大容量、割り当て容量、容量アラートしきい値を確認するためにスクロールします。

関連情報

- ["Storage VMの最大容量の編集"](#)
- ["System Managerでの容量測定"](#)

ONTAP System Managerでハードウェア構成を表示して問題を特定します

ONTAP 9.8以降では、System Managerを使用してネットワークのハードウェア構成を表示し、ハードウェアシステムの健全性とケーブル構成を確認できます。

手順

ハードウェア構成を表示するには、次の手順を実行します。

1. System Managerで、*クラスター > ハードウェア*を選択します。
2. コンポーネントにカーソルを合わせて、ステータスとその他の詳細を表示します。

次の情報を表示できます。

- [コントローラに関する情報]
 - ディスク シelfに関する情報
 - ストレージ スイッチに関する情報
3. ONTAP 9.12.1以降では、System Managerでケーブル情報を表示できます。*ケーブルを表示*チェックボックスをクリックしてケーブル情報を表示し、ケーブルにマウスポインターを合わせると接続情報が表示されます。

◦ [ケーブル接続に関する情報]

コントローラに関する情報

次の情報を表示できます。

ノード

- 正面図と背面図を表示できます。
- ディスク シェルフが内蔵されたモデルの場合は、前面から見たディスク レイアウトも表示できます。
- 表示できるプラットフォームは次のとおりです。

プラットフォーム	ONTAP バージョンの System Manager でサポートされています...										9.8 (プレビューモードのみ)
	9.18.1	9.17.1	9.16.1	9.15.1	9.14.1	9.13.1	9.12.1	9.11.1	9.10.1	9.9.1	
AFF A20用	はい	はい	はい								
AFF A30	はい	はい	はい								
AFF A50	はい	はい	はい								
AFF A70	はい	はい	はい	はい							
AFF A90	はい	はい	はい	はい							
AFF A1K用	はい	はい	はい	はい							
AFF A150用				はい	はい	はい					
AFF A220用				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
AFF A250				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
AFF A300用				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい

AFF A320				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
AFF A400 用				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
AFF A700 用				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
AFF A700s				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
AFF A800				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	
AFF A900 用	はい	はい	はい	はい							
AFF C30	はい	はい	はい								
AFF C60	はい	はい	はい								
AFF C80用	はい	はい	はい								
AFF C190 用				はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
AFF C250				はい	はい	はい	はい*	はい*	はい*		
AFF C400 用				はい	はい	はい	はい*	はい*	はい*		
AFF C800	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい*	はい*	はい*		
ASA A150				はい	はい	はい					

ASA A250				はい	はい	はい					
ASA A400				はい	はい	はい					
ASA A800				はい	はい	はい					
ASA A900				はい	はい	はい					
ASA C250	はい	はい	はい	はい	はい	はい					
ASA C400	はい	はい	はい	はい	はい	はい					
ASA C800	はい	はい	はい	はい	はい	はい					
AFX 1X	はい	はい									
FAS50	はい	はい	はい								
FAS70	はい	はい	はい	はい							
FAS90	はい	はい	はい	はい							
FAS50 0f				はい							
FAS27 20				はい	はい	はい	はい	はい			
FAS27 50	はい										
FAS83 00				はい	はい	はい	はい	はい			
FAS87 00				はい	はい	はい	はい	はい			

FAS90 00					はい	はい	はい	はい	はい		
FAS95 00					はい	はい	はい	はい	はい		

ポート

- 停止しているポートは赤でハイライト表示されます。
- ポートにカーソルを合わせると、ポートのステータスやその他の詳細が表示されます。
- コンソールポートは表示できません。

注記：

- ONTAP 9.11.1以降では、エラー状態のSASポート、またはケーブル接続されている使用中のSASポートがオフラインになった場合のみ、赤でハイライト表示されます。ポートがオフラインで、ケーブル接続されていない場合には、白で表示されます。
- ONTAP 9.10.1以前では、SASポートが無効の場合、赤でハイライト表示されます。

FRU

FRUに関する情報は、FRUの状態が最適でない場合にのみ表示されます。

- ノードまたはシャーシ内のPSUに障害が発生した場合。
- ノード内で高温が検出された場合。
- ノードまたはシャーシでファンに障害が発生した場合。

アダプタカード

- 外部カードが挿入されている場合は、カードと定義されているパート番号がスロットに表示されます。
- ポートがカードに表示されます。
- サポートされているカードの場合は、そのカードの画像を表示できます。サポートされているパート番号のリストにカードが含まれていない場合は、汎用的な図が表示されます。

ディスクシェルフに関する情報

次の情報を表示できます。

ディスク シェルフ

- 正面図と背面図を表示できます。
- 次のディスク シェルフ モデルを表示できます。

システムが実行中の場合...	その後、System Managerを使用して表示できます...
ONTAP 9.9.1以降	「サービス終了」または「販売終了」として指定されて_いな い_すべてのシェルフ
ONTAP 9.8	DS4243、DS4486、DS212C、DS2246、DS224C、NS224

シェルフ ポート

- ポートのステータスを表示できます。
- ポートが接続されている場合は、リモート ポートの情報を表示できます。

シェルフFRU

- PSU障害情報が表示されます。

ストレージ スイッチに関する情報

次の情報を表示できます。

ストレージ スイッチ

- ・シェルフをノードに接続するためのストレージ スイッチとして機能するスイッチが表示されます。
- ・ONTAP 9.9.1以降では、ストレージ スイッチとクラスタの両方として機能する、HAペアのノード間での共有も可能なスイッチに関する情報が表示されます。
- ・次の情報が表示されます。
 - スイッチ名
 - IP アドレス
 - シリアル番号
 - SNMPのバージョン
 - システム バージョン
- ・次のストレージ スイッチ モデルを表示できます。

システムが実行中の場合...	その後、System Managerを使用して表示できます...
ONTAP 9.11.1以降	Cisco Nexus 3232C Cisco Nexus 9336C-FX2 NVIDIA SN2100
ONTAP 9.10.1 および 9.9.1	Cisco Nexus 3232C Cisco Nexus 9336C-FX2
ONTAP 9.8	Cisco Nexus 3232C

ストレージ スイッチ ポート

- ・次の情報が表示されます。
 - ID名
 - IDインデックス
 - 状態
 - リモート接続
 - その他の詳細

ケーブル接続に関する情報

ONTAP 9.12.1以降では、次のケーブル接続情報を表示できます。

- ・ストレージブリッジが使用されていない場合のコントローラ、スイッチ、シェルフ間の*ケーブル配線*
- ・接続性 ケーブルの両端のポートのIDとMACアドレスを表示します

ONTAP System Managerを使用してノードを管理する

System Managerを使用して、クラスタへのノードの追加とノードの名前変更ができます。また、ノードのリブート、テイクオーバー、ギブバックもできます。

クラスタにノードを追加

新しいノードを追加してクラスタのサイズと容量を拡張できます。

開始する前に

新しいノードをクラスタにケーブル接続しておく必要があります。

タスク概要

ONTAP 9.8以降、またはONTAP 9.7でSystem Managerを操作するには、別々のプロセスがあります。

ONTAP 9.8以降での手順

System Manager (ONTAP 9.8以降) を使用してクラスタにノードを追加する

手順

1. *Cluster > Overview*を選択します。

新しいコントローラは、クラスタ ネットワークに接続されているがクラスタにはないノードとして表示されます。

2. *追加*を選択します。

- ノードがクラスタに追加されます。
- ストレージは暗黙的に割り当てられます。

ONTAP 9.7での手順

System Manager (ONTAP 9.7) を使用してクラスタにノードを追加する

手順

1. *(Return to classic version)*を選択します。
2. *Configurations > Cluster Expansion*を選択します。

自動的に新しいノードが検出されます。

3. *新しいエクスペリエンスに切り替える*を選択します。
4. 新しいノードを表示するには、**Cluster > Overview** を選択します。

サービス プロセッサのシャットダウン、リブート、編集

ノードをリブートまたはシャットダウンすると、ノードのHAパートナーによって自動的にテイクオーバーが実行されます。



この手順は FAS、AFF、および ASA システムに適用されます。ASA r2 システム (ASAA1K、ASA A90、ASA A70、ASAA50、ASAA30、ASAA20、または ASA C30) をご利用の場合は、"これらの手順"に従ってノードをシャットダウンして再起動してください。ASA r2 システムは、SAN のみのお客様向けに簡素化された ONTAP エクスペリエンスを提供します。

手順

1. *Cluster > Overview*を選択します。
2. *ノード*の下で、⋮を選択します。
3. ノードを選択し、シャットダウン、再起動、または*Service Processorの編集*を選択します。

ノードが再起動され、ギブバックを待機している場合は、* Giveback * オプションも利用できます。

Edit Service Processor を選択した場合は、**Manual** を選択して IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイを入力するか、**DHCP** を選択して動的ホスト構成を行うことができます。

ノード名の変更

ONTAP 9.14.1以降では、クラスタの概要ページでノードの名前を変更できます。



この手順は FAS、AFF、および ASA システムに適用されます。ASA r2 システム (ASAA1K、ASA A90、ASA A70、ASAA50、ASAA30、ASA A20、または ASA C30) をご利用の場合は、"これらの手順"に従ってノード名を変更してください。ASA r2 システムは、SAN のみのお客様向けに簡素化された ONTAP エクスペリエンスを提供します。

手順

1. *Cluster*を選択します。クラスターの概要ページが表示されます。
2. *ノード*セクションまで下にスクロールします。
3. 名前を変更するノードの横にある⋮を選択し、*名前の変更*を選択します。
4. ノード名を変更し、*名前の変更*を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。